

発行人 / 神奈川県障害者定期刊行物協会

～安心して暮らせる地域社会をめざして～

〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター横浜ホール 3 階
横浜市車椅子の会内

KSK じんかれんニュース

編集人 / NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

NO. 62 2022年8月号

TEL 045-821-8796 FAX 045-821-8469

E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp

URL: <https://jinkaren.net/>

精神障害の労災認定過去最多 21 年度厚労省

2021 年度の精神障害による労災認定件数が過去最多を更新したことが 24 日、分かった。そのうち自殺(未遂を含む)は 79 人に上る。2021 年度に労災認定されたのは前年度比 21 件増の 629 件だったと発表した。原因別でみると「パワーハラスメント」が 125 件で最も多く、強いストレスを感じる働き方が職場でまん延している実態が浮き彫りになった。遺族は悲しみを抱えながら「仕事が原因だと認めてほしい」との思いで懸命に証拠を集め、労災申請にこぎ着けている。だが申請に至らないケースは多い。認定率も 3 割程度にとどまり、労働問題に詳しい弁護士は「幅広く保障すべきだ」と指摘する。

精神障害による労災申請も前年度比 295 件増と 2,346 件で過去最多だった。厚労省の担当者は「働き方への関心が高まり、精神障害が労災認定されることが浸透してきたのではないかと分析している。

20 年度から原因別の項目が設けられたパワハラは、2 年連続で最多だった。厚労省によると、パワハラに続き「仕事内容・仕事量の変化を生じさせる出来事があった」71 件、「悲惨な事故や災害の体験、目撃」66 件の順だった。業種別では「社会保険・社会福祉・介護事業」が 82 件で最多。医療業、道路貨物運送業、飲食店と続いた。

厚生労働省によると、21 年度の精神障害による労災の認定率は約 32%。脳・心臓疾患の認定率も約 33%でいずれも近年は 3 割前後で推移する。労働問題に詳しい嶋崎量弁護士は「しゃくし定規な審査で不支給となるケースが多い」と指摘する。昨年、脳・心臓疾患の労災認定基準が改正され、労働時間以外にも業務負荷がある場合は、残業が発症前 1 ヶ月間で 100 時間などの「過労死ライン」に達しなくても認定できると明記された。だが、労働時間を重視する傾向はなお強いという。嶋崎弁護士によると、申請を巡り、勤務先企業がきちんと従業員の労働時間を把握していないなどの理由で、証拠集めが難航することも多い。「労基署は形式だけにとらわれず、実態に即して幅広く補償すべきだ」と強調した。

2022. 6. 25 神奈川新聞より



2020 年の法改正で「パワハラ」も精神障害の労災の対象に

精神障害の労災認定〈3つの要件〉

- ①認定基準の対象となる精神障害を発病していること
 - ②人体基準の対象となる精神障害の発病前おおむね 6 か月の間に、
業務による強いストレス（心理的負荷）が認められること
 - ③業務以外の心理的負荷や個体側要因により発病したとは認められないこと
- ※評価基準について：精神障害を発病した労働者が「原因となる出来事を主観的にどう受け止めたか」ではなく「同種の労働者が一般的にどう受け止めるか」という観点で評価されます。



出典：厚生労働省「精神障害の労災認定」（まとめ：三富）



“隠さず生きる”統合失調症 親と子の 30 年

2022. 6. 3 NHK NEWS WEB より

ある日突然、自分の家族が、実際には起きていない“妄想”を訴えてきたとしたら…。そしてその“妄想”によってひどく苦しみを始めたとしたら…。どれだけの人が、そのことを周囲の人に包み隠さず伝え、助けを求めることができるだろうか。病気による「症状」と、理解されにくさから生まれる「偏見」の“二重の苦しみ”に襲われる統合失調症。この病を隠さずに生きる道を選択した、ある親子がいる。

津市で暮らす河村淑子さん（81）は、統合失調症に苦しんできた長女と一緒に暮らしてきた過去をそう振り返る。長女の朋子さん（56）に異変が生じたのは今から 30 年ほど前、25 歳の時だった。ある日突然苦痛を訴え、泣き叫び始めたという。朋子さんの生活は統合失調症を発症したことで大きく変わってしまった。当時、県の職員として働いていたが、職場に行くこともできなくなった。最初に通った病院ではうつ病と診断されたが、治療を受けても症状はよくなる。入退院を繰り返し、いくつかの病院を渡り歩いた末、発症から 9 年後に下された病名が「統合失調症」だったのだ。

統合失調症は、脳のさまざまな働きをまとめることが難しくなり、幻覚や妄想などの症状が起こるとされている。「テレビで自分の悪口が流されている」「隣人が自分の家を盗聴している」実際には起きていないことを信じたり、知覚に異常を来してしまったりする症状などが挙げられる。本人は実際には存在しない“悪口”や“盗聴”に

苦しむ一方で、周囲にはその苦しみが理解されにくい。

かつては、「精神分裂病」と呼ばれ、差別された歴史もある。病気による症状と理解されにくさという、いわば“二重の苦しみ”によって、当事者やその家族に孤立をもたらす統合失調症だが、決して縁遠い病ではない。厚生労働省のホームページによると、発症する人は人口の 0.7%と推計され、100 人に 1 人弱の割合で発症するという。

病気に苦しむ一家をさらに追い詰めたのは、当時住んでいた近所の住民から向けられる偏見のまなざしだった。朋子さんは「頭がおかしくなった」と言われ、水をかけられ、石をぶつけられた。

「朋子ちゃんは頭がおかしいから、気持ち悪いら」と言って、去って行った友人もいたという。差別や偏見にさらされる中、淑子さんは引越すを機に、ある決断をした。朋子さんを偏見の目から守るため、あえて近所や周囲の人に対し、病気について説明して回ることにしたのだ。

《 “隠さない” という選択の先に 》

淑子さん

「あるとき気付いたんですよ。隠してしまうと、せっかく生まれてきた子なのに、この子の人生が無いやないかと。隠すということは、本人を否定してしまうことやないですか。100%この子の人権がなくなってくやないですか。親が見てやらなかったら誰が見てくれるんです。私はそう思って腹くくったんです」

いま、親子は、津市の古くからある住宅地の一角に暮らしている。ここに引っ越してきた 11 年前、淑子さんは、近所の一軒一軒にあいさつして

回る際、朋子さんを連れて歩いたという。そして、それぞれの住民に、朋子さんには統合失調症という精神の疾患があること、どのような症状があるかということ、そして、「何かあったら助けて欲しい」と伝えた。「さらにつよい偏見にさらされるのではないか」という不安を抱えつつ、あいさつに回った淑子さんたち。しかし、不安は杞憂だったという。近所の人たちに病気の説明をすると「ああそうですか、よろしくお願ひします」といったように反応は拍子抜けするほど穏やかなものだったのだ。

《 親が子の病気を隠すことこそ偏見ではないか 》

統合失調症という周りからすれば理解するのが難しい病気を持つ家族にとって、そのことを公表するのは勇気がいることだろう。淑子さんも、これまでに出会った同様の境遇にある家族が「病気がある子のことを親が隠してしまう」様子を目の当たりにしてきた。



淑子さんは

「こういう病気を持つ子は皆（親が）隠すんですよ。家族が外へ出さない。私もそうでしたよ、最初は。何が起きたかわからんから、（朋子が）泣き叫ぶのを見て、恥ずかしかったですよ。『そんなに大きな声で泣かんといてさ』って、私言いよったですもん。それ、すなわち、もう偏見やないですか。『みっともないからやめてちょうだい』って言いよったですもん」

そうした中で淑子さんが気付いた「“隠す” ことは、本人を否定してしまうこと」という考え。淑子さんは、子どもの病気などで同じような思いに苦しむ家族たちに、オープンにして助けを求めることの大切さを説く。「30 年、血を吐くような思い、死のうというような思い。いろんな思いが

淑子さんは

「うれしいですね。『朋子ちゃん、今度焼肉食べに行こうな』と誘ってもらって、それだけよくしてもらえる。あの人、車には乗らないから、運転手は私なんですよ」と言って笑う。そして、それは朋子さんも同じだ。「生活が明るくなりました。差別されないから。生活がしやすくて、安心感が持てました。やっぱり偏見なく、1 人の人間として

あつて。苦しんでいる子を見てね、私“恥ずかしい”なんて、思えなくなったんですよ。だから、（病気の子を持つ）世間のお父さんとお母さん方も、余分なことをしゃべる必要はないですけども、つらいときは『こういうことがつらいんやわ』って、助けを求めてもいいんじゃないか。まず、親が偏見を持たない、恥ずかしがらないということですよ」

実際、今の朋子さんは社交的だ。近所には、都合がつけばお菓子を手にお互いの家を行き来して、お茶をする新たな友人もできた。それ以外にも共通の趣味を持つ友人も多い。松阪市にジャズを聴きに行ったかと思うと、京都まで友人と旅行に出かけた際の写真も見せてくれた。

見てくれることがうれしかったです」。そして、付け足すように「生きる希望を与えてくれます」と話してくれた。

“統合失調症という病を隠さずに生きる”。偏見や差別に苦しんだ過去を経て、親子が選んだ生き方がそこにある。（まとめ：三富）

市議会に精神科特例廃止の陳情書を提出しました 海老名家族会「2πr」

精神科特例を撤廃しないと、精神科医療の向上も、患者の人権の確保も望めません。憲法や世界人権宣言上も問題があります。誰でも普通の、あたりまえの医療を受ける権利は保障されるべきです。

海老名精神保健福祉促進会「2πr」は海老名市議会に精神科特例廃止の陳情書を提出しました。

じんかれんの各家族会でも「陳情書や請願書」の意見書を各市町村の議会などに提出されることを願っております。

2πr：双田春枝、岩原義子、柑子木宣博

令和 4 年 5 月 23 日

海老名市議会議長
久保田 英賢 殿

海老名市杉久保南 2-17-17
海老名精神保健福祉促進会「2πr」
会長 双田 春枝

「精神科特例を廃止し、精神科の人員配置や診療報酬の水準を一般診療科と同等にすることを求める意見書」の提出を求める陳情書

陳情の要旨 医療法の「精神科特例」により精神科医療の質が一般診療科に比べかなり低く、人権上の問題も発生している事から、海老名市議会として、国に「精神科特例を廃止し、精神科の人員配置や診療報酬を一般診療科と同等にすることを求める意見書」を提出することを陳情します。

陳情の理由 1958 年に定められた「精神科特例」により、精神科の医師数は一般診療科の 3 分の 1、看護師数は 3 分の 2 でよいという「特例」ができ、60 年以上に渡って改正されず現在に至っています。又、診療報酬も精神科は一般診療科の 3 分の 1 です。その為日本の精神科病院の大部分を占める民間の病院は、困難な経営を強いられ、いわゆる 3~5 分診療と批判されている、「安かろう、悪かろう」の診療をせざるを得ない状況になっています。また日本の精神科病院では、治療の一環として、はなはだしい人権侵害が日常的に行われています。多くの病院で、患者の安易な「隔離」（鍵のかかる個室に閉じ込める）、「身体拘束」（ベッドに括り付けおむつを付けさせ、身動きできないようにする）が行われているのです。この隔離・身体拘束は先進諸国に比べ極めて頻度も高く、期間も長いです。特に身体拘束は患者の心に深い傷を残すばかりでなく、拘束が原因で死亡するケースも少なからず出ており社会問題になっています。国際的にも批判を受けています。精神科の病気は人とのかかわりの病気です。投薬治療だけでなく、対話を十分行う治療が必要です。医師数が今の 3 倍になり、看護師数が 1.5 倍になれば、すなわち、一般診療科並みの人員配置が行われれば、もっと余裕のある、かかわりを大切にした良質の医療が実施できるはずで、使用する薬の量も減っていくでしょうし、世界でも並外れて長い入院期間も短くできるでしょう。隔離や拘束も止む終えない時に限るなど、原則廃止にできると思われ、日本では戦後、社会防衛的に「収容」を目的として作られた精神科病院の在り方が、この「精神科特例」により 60 年以上も温存されてきました。「他科」と違って「精神科」では人権軽視・無視の不平等で差別的な、質の低い医療が長年行われてきたのです。

以上、「精神科特例」の存在故に、精神障がい者が質の低い医療や人権侵害にあたる医療を甘んじて受けざるを得ない現状を改善し、一般診療科並みの医療が受けられるよう、海老名市議会として国に「精神科特例を廃止し、人員配置や診療報酬の水準を一般診療科と同等にすることを求める意見書」を提出することを陳情いたします。

障害者の就労「短時間可」へ 機会拡大へ厚労省

2022. 6. 18 神奈川新聞 & Yahoo News より

厚生労働省は 17 日の労働政策審議会(厚労省の諮問機関)分科会で、障害者が働ける機会の拡大に向けた意見書をまとめた。一定数の障害者雇用を企業などに義務付けた法定雇用率制度を巡り、算定対象に精神障害者ら週 10 時間以上 20 時間未満で働く人を加えることが柱。企業の雇用のインセンティブ(動機づけ)を与える狙い。短時間での就労希望者の増加が背景にある。早ければ、秋に見込まれる臨時国会に障害者雇用促進法などの改正案を提出したい考えだ。

算定対象は現在、障害の種別に関わりなく、勤務時間が週 10 時間以上 20 時間未満の精神障害者、重度の身体障害者と知的障害者を追加すべきだと盛り込んだ。短い時間であっても就労意欲のある

人には、自立に向けて働ける環境を整える必要があると判断した。近年、短時間での就労ニーズが高い精神障害者を雇用する企業が増えていることも要因。



障害者の能力や適性に応じた就労を実現するためのハローワークの体制強化も盛り込んだ。

障害者等が希望や能力、適性を十分に活かし、障害の特性等に応じて活躍することが普通の社会、障害者と共に働くことが当たり前の社会を目指し、障害者雇用対策を進めている。障害者の雇用対策としては、障害者雇用促進法において、企業に対して、雇用する労働者の 2.3%に相当する障害者を雇用することを義務付けている(障害者雇用率制度)。これを満たさない企業からは納付金を徴収しており、この納付金をもとに雇用義務数より多く障害者を雇用する企業に対して調整金を支払ったり、障害者を雇用するために必要な施設設備費等に助成したりしている(障害者雇用納付金制度)。また、障害者本人に対しては、職業訓練や職業紹介、職場適応援助等の職業リハビリテーションを実施し、それぞれの障害特性に応じたきめ細かな支援がなされるよう配慮している。

“感情をぶつける医師”

じんかれん家族会員 〈ラベンダー大好きさん〉よりの投稿



私は 70 代の女性で、夫は亡くなっており、長男、次男共に統合失調症と診断されております。私の長男は 10 代半ばより、自宅の壁をける、大声をあげるなどで体感幻覚、被害妄想が強く、統合失調症と診断されました。次男は 10 代半ばより、兄の影響を受け、当初「不安神経症」と診断されましたが、年金診断書申請のため、「統合失調症」とされました。入院時は旧薬中心の処方でした。近くのクリニックに通院し、スイッチングと称して新薬がプラスされました。光トポグラフィー検査により、医師が「君の脳は極めて正常に近い脳です」と、私と次男の前で話されました。薬は 2 種類に減薬され、ずい分すっきりした様です。その後、私の夫が亡くなり、兄弟にとっては父が亡く

なったショックで精神的に不安定になり、兄がお墓参りの時に地面をけったことを話すと、「よだれをたらして寝ていた方が楽なこともある」と一挙に 9 種類に増薬されました。他に内科で副作用の薬も多く処方されています。転院しましたが、経過を知らない医師はそのままの処方でした。あまりにつらそうなので、私が通院時同行して、徐々に減薬をしてもらっています。

主治医に事実を話せない診察とは何なののでしょうか？ 恐怖におびえながら話せない診察とは何なののでしょうか？ 疑問を持ちます。性格は非常に優しく細やかで、家事もよく手伝ってくれます。今の精神科医療の向上を心より望んでいます。

いきいきシニア 健康ライフ2題

1. 《転ばぬ先の杖》

横浜高校野球部の寮母として長年選手の食事作りに携わってきた、5 度の甲子園優勝に導き、松坂大輔を育てた横浜高校野球部渡邊元監督を父にもつ管理栄養士の渡邊元美さんのエッセイを目にしました。「食の力、人生 100 年時代、今を楽しむ父と母に送るレシピ」と題した監督の近況と食の大切さを伝える話です。

約 50 年にわたり現役だった父は引退する時には 70 歳を過ぎていました。引退してからはグラウンドへの心配はしなくて済むようになったのですが、その危機に備えるための行動が、我が家のみへ向けられるようになっていきました。これが長年の習慣なのか、父は「転ばぬ先の杖」を何本も何本も持っていないと落ち着かないのです。台風が来ると言えば、大量の水や保存食を買い込み、大雪が降ると聞けば北国に負けず劣らずの雪対策グッ

ズを買い込み、万全な備えに 1 日を費やします。コロナ禍で自粛生活に慣れてしまい、外出する機会が減ったことで、運動量まで減ってしまい歩くための筋力の衰えという新たな問題が発生したのです。「転ばぬ先の杖」をたくさん用意してもそれを持つ自身の両足がしっかりしていなくては元も子ありませんよね。運動・食事・休養の 3 つが揃うと、人はいくつになっても筋肉を増やすことができます。最初、散歩を嫌がる母をあの手この手でやる気にさせ、今では、2 人でのウォーキングを日課にしています。人生 100 年時代。「転ばぬ先の杖」も大切ですが、自身の足で自由にやりたいことをやり楽しい毎日を過ごせるよう、私はこれからも美味しくて身体に良い食事で応援していきたいと思っています。

2022.6.20.「横須賀新聞」より

2. 《仕事も趣味も、生涯現役》

横須賀に内科クリニックを開業し、地元で“現代の赤ひげ”と親しまれている医師がいます。院長の中島茂さんは現在 74 歳。中島医師は治療の傍ら「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間“健康寿命”を伸ばしたい」とアクティブシニアの旗振り役となって自らも健康づくりに率先して取り組んでいます。診察以外にもウォーキングや体操による運動療法、薬膳ランチや料理教室といった食事療法の催しを企画して、治療と予防の両面からアプローチを続ける。又、身体だけでなく心理面のケアも重要と考え「医療・介護・結婚 人生相談室」を開設。家族の介護や結婚など身の上話に耳を傾けて助言を行っています。「患者の喜びが私の喜びで、仕事のやりがい。少しでも健康寿命延伸と地域医療に貢献できれば。」



経験則からのモットーは、“動機は不純な方が長続きする” 【ある患者の話】
冷蔵庫のものを何でも食べてしまい、食事コントロールが困難。どう指導してもなかなか改善しなかったが、ある日を境に食事に気をつけるようになり、数値も正常に戻った。聞けば好きな人ができて、その人のために痩せたいとの思いが突き動かしていたという。「すなわち生活習慣病は遺伝子を乗り越えることが可能。正攻法より不順な動機の方が案外うまく行く」と話す。制約だらけにして楽しみを失っては、正しい食生活も日々の運動習慣も継続は難しいというのが持論。提唱する医師として、また古希を越えた一個人として実践する。毎朝の腹筋・腕立て伏せ・スクワットは欠かさず、自宅で太陽と海に向かって約一時間。他にも読書やヨガ、ピラティス、タンゴ、社交ダンスなど幅広く嗜む。「趣味や生きがい、夢をもつことは大事。幸福感の高まりは健康寿命にも影響する」。老いをどう生きるかは、人生をどう楽しむかということ。大勢の患者を抱えた仕事も、たくさんの趣味もすべてが生きがいになっている。

2022.6.24 タウンニュース横須賀版より (まとめ: 三富)

神奈川県内の重度障害者医療費助成の実施状況

2022.4.1現在

自治体名	身体			知的			複合 (身3+知B1)	精神		年齢制限	所得制限	制度名	備考 精神障害者適用開始年月等 (ただし年齢・所得制限は後に付加もあり) <精神障害の等級欄> ○は通院+入院、●は「通院のみ」、助成対象
	1級	2級	3級	A1 (IQ20以下)	A2 (21~35)	B1 (36~50)		1級	2級				
県(助成対象)	○	○		○	○		○	●		○	○	重	2012.4~*精神は通院のみ *精神・入院援護金(月額10,000円)
横浜市	○	○		○	○		○	●				重	2013.10~*精神は通院のみ *精神・入院援護金
川崎市	○	○		○	○		○	●				重	2013.10~*精神は通院のみ *精神・入院援護金
相模原市	○	○		○	○		○	○	○			重	2004.10~ *入院援護金より優先
横須賀市	○	○		○	○		○	●		○		重	2013.10~ *精神は通院のみ
平塚市	○	○	○	○	○		身4+B1	○				重	2009.1~
鎌倉市	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	障	1983~ *身体4級の一部にも適用 年齢制限2013.10~、所得制限2015.12~
藤沢市	○	○	○	○	○	○	○	○	○			障	2002.10~
小田原市	○	○		○	○		○	●				重	2013.1~ *精神は通院のみ
茅ヶ崎市	○	○		○	○		○	○				重	2002.10~
逗子市	○	○		○	○		○	●		○		重	2012.10~ *精神は通院のみ
三浦市	○	○		○	○		○	●		○		重	2014.10~ *精神は通院のみ
秦野市	○	○		○	○		○	○		○	○	重	2012.4~
厚木市	○	○	○	○	○	○		○		○	○	心	2009.10~
大和市	○	○		○	○		○	●		○	○	心	2013.1~ *精神は通院のみ
伊勢原市	○	○		○	○		○	●		○	○	心	2012.4~ *精神は通院のみ
海老名市	○	○	○	○	○	○		○	○	○		障	2003.4~
座間市	○	○	○	○	○	○		○		○		心	身体3級及び知的B1、B2は1割負担、精神1級 2012.10~他に精神2級・精神科通院も対象
南足柄市	○	○		○	○		○	●		○		重	2013.10~ *精神は通院のみ
綾瀬市	○	○		○	○		○	○		○		重	2011.7~
葉山町	○	○		○	○		○	○		○		心	2007.10~
寒川町	○	○	○	○	○	○		○		○	○	重	2008.10~ 身体3級は一部
大磯町	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	障	2009.1~ 他に身体4級も対象
二宮町	○	○	○	○	○	○		○	○	○		障	2009.10~ 他に身体4級も対象
愛川町	○	○	○	○	○	○	身4+B2	●		○	○	障	2013.10~ *精神は通院のみ
清川村	○	○	○	○	○	○		○				重	2018.4~

その他は省略

NPO 法人じんかれん 研修会のお知らせ
講演 『全人格的に理解し、支援する』

私たちは、精神疾患を持つ家族と接する際に、一般的には、言葉と、行動を中心として接しているのです。しかし、それだけでは、その人の一部しか理解が出来なくなるので、回復も遅れます。今回は全人格的なコミュニケーションを学んでみましょう。

講師 心理カウンセリングルームそらいろ代表 井上雅裕氏

じんかれんで面接相談を担当しておられる井上雅裕氏を招いてお話を伺います
精神疾患を持つ家族に対する心理的アプローチについて、多くの気づきが得られると思います。

- ♥ 日時 2022 年 10 月 4 日 (火) 10:00~12:00
- ♥ 場所 かながわ県民センター 304 会議室《横浜駅西口 徒歩 5 分 ヨドバシカメラそば》
- ♥ 参加費 無料 ◆主催 NPO 法人じんかれん
- ♥ 定員 60 名 (感染状況により変更します)

お問合せ: NPO 法人じんかれん事務所 火・木 10:00~16:00

電話 045-821-8796 FAX 045-821-8469 咳・発熱等、症状のある方はご遠慮ください。

じんかれん家族相談のご案内

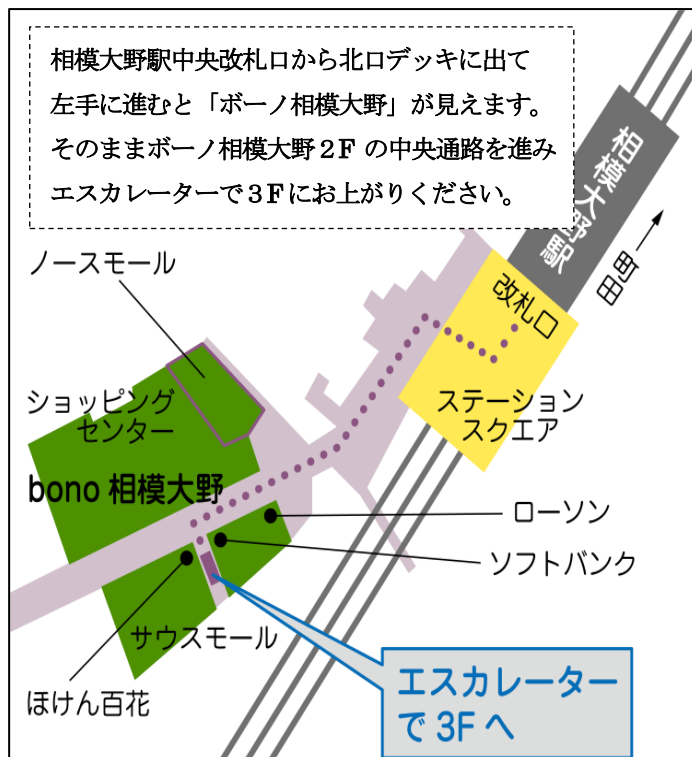
【家族電話相談】

- ◆研修を積んだ家族相談員による電話相談
毎週 水曜日 10 時~16 時 予約不要
※水曜日が祝日の場合でも大丈夫です。
☎ 045-821-8796
困っていること、悩んでいることなど
お話し下さい。

【面接相談】

- ◆精神保健福祉専門家による面接相談
毎月 1 回 第 3 火曜日 13 時~16 時 要予約
※第 3 火曜日が祝日の場合でも大丈夫です。
相談場所: 相模原市南区 3-3-2
ボノ相模大野サウスモール 3 階
「ユニコムプラザさがみはら」
ミーティングルーム
予約電話: 火・木曜日 10 時~16 時
☎ 045-821-8796

※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。



【編集後記】猛暑による熱中症、水害による農作物被害。日頃自然の恩恵を受けている私たちですが、一方で台風や地震時は無力さを感じます。つくづく人間は自然の中で生かされていると感じます。

我が家の「転ばぬ先の杖」を揃えました。電池の買い置き、レトルト食品、焼酎(?)、男物日傘 (三富)



赤い羽根 かながわ

じんかれんニュースは、神奈川県共同募金会の助成を受けて編集・発行しています。この機関紙を通じて、精神障害保健福祉の向上に努めて参ります。募金にご協力頂いた皆さまにも感謝申し上げます。